昭和区の花・ハナショウブ

平成元年11月に昭和区の花に制定されました。ハナショウブはノハナショウブを原種とする多年草で、多くの品種があります。6月頃茎の頂に大形の花を開き、紅紫・白・絞りなど花色も豊富です。

鶴舞公園の中にある菖蒲池は、約90種類、2万株のハナショウブが植えられており、初夏の開花の頃になると、多くの人々が訪れます。池といっても、通常は水を張らず、ハナショウブの開花時期にだけ水を張り、水面に映るハナショウブの水際の涼しさを演出しています。

咲き誇るハナショウブ（鶴舞公園 菖蒲池）

ショウちゃんとめぐる ぶらり昭和区MAP ～鶴舞・村雲・白金～

製作：「ぶらり昭和区MAP」製作委員会
桜花学園高等学校インターアクトクラブ
昭和区案内人クラブ
昭和鯱城会
八事・杁中歴史研究会

ぶらり昭和区デジタルMAP
利用料無料、アプリ不要、
おすすめスポットがまるわかり!

発行：名古屋市昭和区役所
TEL 052-735-3822　FAX 052-735-3829
2025　00,000部
※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

まちあるきコラム

都島通沿いの石の仏さま、そのエピソード

B 観音菩薩像

昭和44年3月、尾陽神社にあった秋葉堂を都合により取り壊した際、地域の人によって現地（邨宅の道沿い）に祀られたものです。観音像には、寛政6年（1794）と書かれています。

B 不動明王像

観音菩薩同様、尾陽神社の秋葉堂を都合により取り壊した際、地域の人によって現地（邨宅の道沿い）に祀られたものです。不動明王像には、文化14年（1817）と書かれています。

B 地蔵菩薩像

このお地蔵さんは、昔近くの畑に埋まっていたものをみんなで掘り起こして、お世話をしていましたが、時代とともに世話をする人が少なくなり、50年前ほどから現地（邨宅の道沿い）に祀られるようになりました。「昔、ならず者が追われて、この地蔵の後ろに隠れていると見つからなかったということから、地蔵を家に持っていって安置したのですが、病気になってしまったので、また元の位置に返した。」というエピソードがあるそうです。

まちあるきコラム

ちょっと気になるまちの新旧スポット。

C イヌ型の消防団詰所

若葉児童遊園地内にある白金消防団の詰所で、昭和61年に建てられました。児童遊園地に遊びに来る子どもたちにも親しみを持ってもらおうと、アイディアをこらした外観になっています。モチーフはブルドッグで、おしりが入り口になっています。地域の消防団員とともにまちの安全を見守っています。

D 八幡湯

創業明治17年（1884）の井戸水を薪で炊く昔ながらの銭湯です。工場や建設現場などで出た廃材を薪として使用しています。歴史ある建物は名古屋市登録地域建造物資産にも登録されています。

E STATION Ai

令和6(2024)年10月にオープンした、国内最大級のオープンイノベーション拠点です。スタートアップ企業の創出育成やオープンイノベーションの促進を目的に、様々な支援サービスを提供しています。新規事業創出に取り組む人々のためのオフィス、フィットネスジム、テックラボに加え、どなたでも利用可能なカフェ・レストラン、ホテル、イベントスペース、あいち創業館が併設されています。

まちあるきコラム

こんなところにこんなもの。ちょっと楽しいスポット発見。

F 名工大の門とモニュメント

名古屋工業大学は明治38年（1905）に創設された名古屋高等工業学校が前身で、名古屋初の国立学校でした。

正門を入ると前庭にはニュートンリングと呼ばれるモニュメントが設置されています。このモニュメントや正門の4つの円弧にはそれぞれ8桁の数字が記されています。この数字は、有名な4人の科学者（レオナルド・ダ・ヴィンチ、ガリレオ・ガリレイ、アイザック・ニュートン、ルネ・デカルト）の生没年を表しているそうです。どの数字がどの科学者にあたるか、クイズに挑戦してみましょう。

G 名大病院・旧正門と塀

明治4年（1871）設立の仮医学所を前身とする愛知県立医学専門学校が、大正3年（1914）に現在の地に移転しました。その後、愛知医科大学へ昇格し、名古屋医科大学への移管を経て、昭和14年に名古屋帝国大学医学部、戦後名古屋大学医学部になりました。

戦前の建造物の多くは空襲で焼失しましたが、損壊を免れた旧正門と外塀は、明治・大正期の近代建築の貴重な歴史遺産として国の登録有形文化財に指定されています。

鶴舞・村雲・白金エリアって？ ～そのあらまし～

昭和区の西部に位置するこの地域は、御器所台地を中心とした地域で、高低差が約15mあるため、急坂や崖を見ることができます。台地上には、古より集落が発達し、由緒ある神社や寺社など点在しています。

御器所村だった頃、精進川改修工事で発生する土砂を利用してこの地域の沼地を埋め立て、明治43年（1910）開催の第10回関西府県連合共進会の会場としました。これが鶴舞公園の始まりです。

精進川は明治43年（1910）に新堀川と改称され、以降、河川両岸には工場や木材業者の店舗が立ち並びはじめました。やがて、昭和30年代以後の高度経済成長時代には、この一帯は工業地帯として急速に発展していきました。

また、東郊通の南北付近では、大正元年（1912）からの耕地整理事業により、天池の埋立て等耕地の整理が進み、その後、都市化に向けた宅地造成が進み、現在の市街地の基礎ができていきました。

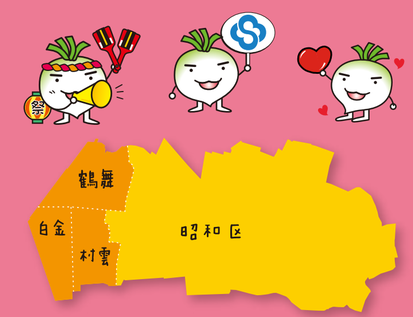
※明治43年（1910）第10回関西府県連合共進会時の噴水塔。奥に見える城は愛知県の売店。

共進会とは、明治時代に開催された地方博覧会だよ！当時の優れた工業製品や農産物などが出品されたよ♪

昭和区のマスコット ショウちゃん

ショウちゃんとめぐる

ぶらり昭和区MAP ～鶴舞・村雲・白金～



名古屋市昭和区役所

A 鶴舞公園

鶴舞公園は市の中央部にあって栄等の都心部に近く、JR・地下鉄鶴舞駅に隣接する市内で最も歴史のある公園です。フランス式洋風庭園と回遊式和風庭園を併せ持つほか、公会堂、中央図書館、テラスポ鶴舞などの施設がある総合公園となっています。
また、桜の名所となっており、春には花見を楽しむ人々で賑わいます。

a 岡谷鋼機名古屋公会堂

昭和天皇の御成婚を祝って昭和5年、開館しました。大ホールでは演説会や音楽会などが開催され、文化や社交の殿堂としてにぎわいました。戦後は約10年間にわたって米軍に接収されましたが、接収解除後は、多彩な音楽会や演劇などが催され、豊かな芸術文化の拠点として市民に親しまれてきました。令和2年に国の登録有形文化財（建造物）、市の景観重要建造物に指定されました。

b 噴水塔

明治43年（1910）の共進会会場の正面広場を飾ったのがこの噴水塔で、その後、鶴舞公園のシンボルとして市民に親しまれてきています。

地下鉄鶴舞線工事に伴い解体されましたが、昭和52年に築造当初の姿に忠実に復元されました。この噴水塔は、大理石の円柱に岩組を配した和洋折衷の明治調をよく表現し、全体としてはローマ様式の変化のある豊かな水景を形づくっています。

c 奏楽堂

共進会開催を記念して、噴水塔とともに建てられたルネサンス風の建造物で、設計者は噴水塔と同じ鈴木禎次工学士です。細部には、屋根飾りのハーブ、舞台を囲む手すりには「君が代」の楽譜がデザインされています。

昭和11年から平成7年まではデザインが異なる奏楽堂が建てられていましたが、平成9年に築造当時の姿に復元されました。

d 普選記念壇

大正14年（1925）施行の普通選挙法を記念し、昭和3年に建造された野外劇場。壇上壁面に普通選挙の基本精神「五箇条の御誓文」とその英訳、および建設の趣旨を記載した青銅板が掲げられています。この青銅板は戦争で失われましたが、昭和42年に復元されました。

e 旧動物園跡

かつて、鶴舞公園に動物園がありました。名古屋初の市立動物園は、大正7年（1918）に公園のテラスポ鶴舞の南側から西側にかけて開園しました。動物は大須の私営浪越動物園から寄贈され、以来、昭和12年に東山動物園に移転するまで、約20年間市民に親しまれていました。

現在、この動物園の名残は、門柱2基を残すのみとなっています。

f いしずえの碑

民主主義と社会進歩のいしずえとなった先覚者とそれに続く人たちをたたえた顕彰碑です。鶴舞公園は、大正12年（1923）には名古屋で初の「メーデー」の集結会場として、昭和に入ってからも「安保反対運動」や「沖縄返還運動」の集結会場として多くの市民が詰めかけた民衆運動に縁の深い所です。

g なぞの石

鶴舞公園には、刻紋や大型の矢穴痕に特徴づけられるなぞの石が存在します。鶴舞公園の造成には、精進川を新堀川に付け替える工事の浚渫土砂が利用されており、その土砂に交ざって運ばれ利用されたようです。大型の矢穴は木製の矢を使用した石材切り出し時の痕跡で、名古屋城普請時の残石と考えられています。

鶴舞公園マップ

h 吉田山

この丘陵地は、初代名古屋区長(市制前のこと)吉田禄在の所有地でした。禄在は、名古屋を経由する幹線鉄道(東海道線)建設の誘致をはじめ名古屋の礎を築き、近代化に尽力した人です。共進会の際に土地を寄付し、金龍寺を模した貴賓館(聞天閣)が建てられました。昭和3年の博覧会時は美術館が建設され、その後猿面茶席(後に国宝)、松月斎が移築されました。戦中は高射砲陣地となり、各施設は全て戦災で焼失してしまいました。

また、大昔はその台元まで潮が満ち引きする海だったため、貝塚が発見されています。

i 竜ヶ池

鶴舞公園ができる以前、このあたり一帯は旧御器所村の水田や大根畑が広がる田園地帯でした。この池の水源は、千種区の猫ケ洞池で、吹上方面から流れる川をせき止めて造られたかんがい用のため池でした。共進会の折には浮見堂などを設け、眺望のよい所でした。

j 胡蝶ヶ池

明治43年（1910）の共進会の時に造られた池で、鶴舞公園が整備されてからもそのままの形で残っています。池全体を上から見ると蝶が羽を広げた形をしています。北側の池には、6月から7月にかけて池一面にハスの花が見られます。南側の池にある「中の島」には青銅製の「鶴の噴水」などがあります。

k 酒匂の滝

登竜橋から竜ケ池の対岸に目を向けると、落差4mの滝が見えます。周辺の市街化により、補給水が断たれ、汚れが目立ってきたので、昭和30年、近くのビール工場の冷却水が引かれました。「酒匂の滝」と命名され、これは実現のため絶大な協力を惜しまなかった時の工場長「酒匂常仲」氏にちなんで付けられたものです。

l テラスポ鶴舞（多目的グラウンド）

平成30年にオープンした人工芝の多目的グラウンド2面と、おしゃれなクラブハウスが目印のスポーツ施設です。「テラスポ」とはテラスとスポーツを組み合わせた造語で、「市民のテラス空間」として、交流や憩いの場にしたいというメッセージが込められています。

サッカーのみならず、様々なスポーツやレクリエーションが楽しめるコミュニティグラウンドとなっています。

m 八幡山古墳

直径82m、高さ10mの規模を誇る東海地方最大の円墳です。大正8年（1919）、鶴舞公園に編入され、昭和6年、国の史跡に指定されました。

5世紀前半に名古屋台地を支配した豪族の墳墓とみられ、出土した埴輪（はにわ）などは戦災で失われました。八幡山の名は、御器所八幡宮の奥宮があったからで、いろいろ神事が行われたとも伝わっています。